

みんな元気



児童養護施設 共楽養育園

〒745-0801
山口県周南市大字久米1347
TEL / 0834 (25) 0017
FAX / 0834 (36) 0017
E-mail / info@kyoraku.or.jp

第70号

春のご挨拶

朝起きたら「おはよう。」と言いながら支度をし、朝ご飯を「いただきます。」と言っていただき、学校や仕事に行く時、「行ってきます。」と言えば、「行ってらっしゃい。気をつけてね。」と言ってもらい、毎日が始まっていきます。平凡な当たり前の日常ですが、それを支えてくれる人と言葉をかわすことで気持ちが伝わり、『今日も頑張ろう』と元気をもらっています。言葉をかけることは、お互いを思いやり、感謝の気持ちを伝えることだと思います。そんなやりとりの積み重ねが、子ども達との暮らしの中にある「小さな幸せ」や「小さなサプライズ」の発見であり、それを大切に紡いでいく毎日が、子ども達が豊かに成長していく力となると思います。

法人の理念にある「慈愛と感謝の気持ちを基本」として、子ども達と共に過ごし、見守り、子ども達との生活を大切にしていきたいと気持ちを新たにしています。

これからも地域の皆様や関係者の皆様の多大なるご支援をご理解のもと、子ども達と地域の一員として歩ませていただきたいと思います。変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

共楽養育園

園長 安村 裕美

丁君へ

担当職員 今村 恭子

丁君は、家の都合で二歳の時に、共楽養育園に入所してきました。初日は、園長先生におんぶされ過ごしたそうです。まだまだ言葉が出ずでしたが、皆と一緒に生活していくうち、話も出来る様になり、皆と仲良く過ごせる様になりました。穏やかな性格で屈託のない笑顔の丁君に、皆が癒されました。運動するのが大好きで、すこやかホームの御家族が、運動会で声をかけて下さった時の嬉しそうな顔は忘れられません。

小学校中学校では、サッカー部に入り、前向きに頑張ってきました。人懐っこい性格なので御父兄にも可愛がられていました。

高校二年の年、丁君の担当を伝えられ、私を受け入れてくれるだろうかと心配しました。すると、「今村先生の担当になったよ。頼むね」と、丁君の方から言ってくれ、担当させて貰える事に感謝で温かい気持ちになりました。

高校では、職場体験が近づく、緊張して心が不安定になり悩みましたが、いざ実習が始まると前向きに取り組んで、実習先から褒めて頂く事が多く、誇らしい気持ちになりました。「礼儀・常識・感謝の心」を、身につける為に声をかけると、最初は素直に受け入れられず、反

発していましたが、その後は素直に受け入れられる様になり、成長した姿を見る事が出来ました。

長い園生活では、辛い事、淋しい事も、沢山あったと思いますが、今の丁君なら、園を出ても、きっと明るく前向きに頑張っていると思えます。今後も、成長する姿を見続けたいので、時々、園に遊びに来てね、待っています。

卒園児 T・Y

僕は、二歳の時に共楽養育園にきました。小学生の時、サッカークラブに入り、経験を生かし、中学生になってもサッカー部に入部しました。練習は厳しく大変だと思うこともありました。部員、顧問、園の先生に、いつも励まされたおかげで三年間サッカーを続けることができました。高校では、サッカー部がないので、昼休み時間に、友達とサッカーをして楽しみました。卒業が近づくにつれ、長い園生活のことを思い出して、寂しくなる日もありました。園を出て一人暮らしをするのが不安ですが社会に出て多くの人と接して、新たな仲間を作り、楽しく生活したいです。共楽養育園のみなさん、僕を育ててくれてありがとう。うございませう。

Mさんへ

担当職員 松元 宏子

Mさん、高校卒業おめでとう。Mさんが、なかべ乳児院から共楽養育園に来て十六年が経ちました。しっかりしていた幼児期、明るく元気な小学六年間、部活バスケット部では怪我也あったり、熱を出したりの中学生でした。

高校は、専攻科を入れると五年間通学することになる、防府高校衛生看護科に進みました。週五日の授業、土曜は朝早くからの部活動、日曜はアルバイトと休みが殆どない中、真面目によく頑張った三年間だったと思います。

他の卒業生と違って、Mさんはあと二年園に残って専攻科で学びます。専攻科二年間は、かなりハードだと聞いていますが、何事も弱音を吐かず頑張ってきたMさんですから、きっと二年後には国家試験を見事パスして、笑顔が見られると確信しています。今までの誰よりも長い施設生活になるけど、残りの二年間、体につけて頑張ってくださいね。ずっと応援しています。

高校卒業児 M・A

これまでの園での生活をふり返って、集団生活だし規則や制限も沢山あって嫌だなと思うこともありますが、

しかし、仲良い人がいたり可愛い年下の子や話を聞いてくれる先生がいるし、クリスマス会や園祭などの園の行事もあってすごく楽しいと思うことの方が多いです。

自分は、まだ後二年間園にいます。「一人暮らししたいな」と、昔はまったく思わなかったけれど、最近はよく思うようになりました。でもまだ一人で早起きできないし、料理もできないし、あまり自分のことがひとりでできないのでこの二年間で少しずつできるようにしていきたいとは思っています。

園での生活は結構楽しいのであと二年間たのしもうと思えます。二年後が本当の私の共楽養育園の卒園です。



卒業、旅立ちおめでとう！

K君へ

担当職員 梶村 高秀

K君、卒業・卒園、そして入学おめでとう。四月からは、専門学生ですね。K君の、「人の為になる」そんなホテルマンに期待しています。K君は、学校でも園でも、よく頼まれ事をされてきましたね。頼まれ事をやりとげできた信頼もあると思います。が、頼み事をお願いしたくなる雰囲気を持つている、そんなK君だから色んな所で頼りにされてきたのだと思います。K君にできること、任された仕事にそれをひとつ加えられる、そんなホテルマンになれると信じています。

そして、これから一人暮らしが始まりますが、自分で自分を律して、自分の力で生きていく事とは、とても困難な事だと思います。そんな困難に会った時には、K君が助けてきた人達を見てみて下さい。誰も、自分一人の力で生きていません。誰かに頼れる人になって下さい。そして、その時は、謙虚にいきましょう。今、新型コロナウイルスが世間を騒がせています。そんな中で、疑心暗鬼が広がっているように感じます。不安の中でも、人に頼られ、人を頼って、人とのつながりを大切に強く生きて下さい。K君なら、新しい環境でも、信頼し合うことのできる人間関係を築くことができます。どうか自信をもつて夢を追って下さい。応援しています。

卒園児 K・N

僕が共楽園に来たのは、中学三年生の時です。来た時はとても不安

Yさんへ

担当職員 平島 瞳

Yさんが園に来たのは十二年前。そして、同じ年私も園に就職しあなたは私の初めての担当の子の一人でした。小学一年から三年、中学三年から高校一年、そして最後の高校三年、計六年間Yさんの担当でした。

Yさんと出会ったあの頃、あなたは小さくて甘えん坊で泣き虫な女の子でした。そんなあなたが気づけば卒園を迎える。信じられない気持ちです。ツンデレちゃん不器用で人付き合いが本当に苦手。正直将来大丈夫だろうかと不安に思うこともたくさんありました。しかし、高校生になりアルバイトもまよかの接客業、文化祭でのファッションショーでは、大勢の前で堂々と歩く姿、就職も自分でしっかり考えて動いている姿を見て本当に成長したなと思いました。

今だから言えます。十二年前担当になった時、卒園まで担当として見続けたいと思っていました。それはできませんでしたが、今振り返り一番に思うことは、担当関係なく十二年間近くでYさんの成長を見ることができたことが幸せなことです。まだまだあなたの課題はたくさんあります。(いつも言っているので省略(笑))でも、昔を知っているからこそYさんがどれだけ成長したかが分かります。あまり言葉

安でしたが、生活していくうちに不安も解消されていきます。共楽園での生活は、慣れるまでとても大変でした。特に大変だったのは、ご飯の時間や風呂の時間、就寝時間が決まっていたことです。園での生活にもだいぶ慣れてきた頃、僕は高校に入学しました。高校生活では、勉強とアルバイトに力を入れてきました。勉強とアルバイトの両立はとても難しく、何度か心が折れそうになりましたが、何とか三年間続けることが出来ました。そして今、高校を卒業し、共楽園を卒園することになりました。

僕が卒園にあたって思うことは、「共楽園に来て良かった。」ということ。初めて共楽園に来たときは「施設で生活とか嫌だな。」と思っていましたが、色々な人と出会い、色々な事を学んでいくなかで思いも変化していきました。今はもう「嫌だな。」という気持ちは無くなり、かわりに「好き」という気持ちが出てきました。共楽園に来て生活できたことは、僕の人生において一生の宝物に思います。実は、卒園にあたって感謝を伝えておきたい人達がいます。それは、共楽園の先生達です。僕が今こうして卒園を迎えることができるのは、先生達のおかげです。先生達が居なければ、今の僕は居ませんと言っても過言ではないくらいです。いつもは恥ずかしくて言えないけど、「今までは世話になりました。ありがとうございました。」と、伝えたいです。これからは、自分の夢を叶えるための第一歩として、広島専門学校に進学します。ここで経験したことを活かして、自分なりに頑張っていこうと思います。

卒園児 Y・T

私は、共楽養育園に六歳から来たので約十一〜十二年間お世話になりました。入所の頃は、何でもこなすので暮らすのかわいさ分かっていませんでしたが、すぐお世話になりました。

小学生の高学年から授業に出なかつたり、勝手に外に出たりして迷惑を色々かかけたりしました。しかし、中学校に入ってから真面目に授業は受けました。

一番大変なことは高校に入ったあとの進路先の決定でしたが、私にとってはそれよりも、毎年の園での担当職員発表でした。私の場合、あまり変わることはなかったですが(自分は人間関係がだいぶわがままというが大変なのでいつも担当を決めるのが大変と職員に言われてました。)だから変わった時は大変でした。

園を出ても、これからは勉強は必要なので頑張っていきます。みなさんも将来のために頑張ってください。十一〜十二年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

ヨシタケ シンスケさんの絵本を読んで

里親支援専門相談員 永吉 敦子

学生時代は漫画すら読まない私でしたが、新型コロナウイルス外出自粛のためたっぷり時間があるので本棚の本をもう一度読み返してみた。本屋さんでこの本に出会ったときに絵本にこのタイトル?と思った。絵本作家のヨシタケシンスケさんの『それしかないわけないでしょ』。絵本というと小さな子どもが読むものと決め付けていたけれども、このヨシタケシンスケさんの絵本は大人が読んで面白い。ヨシタケシンスケさんは子どもに選択肢を増やしてあげたり、それを子どもが自分で考えるきっかけをつくってあげるのが大人の役目だといっている。

『それしかないわけないでしょ』を簡単に紹介すると、主人公は5才くらいの女の子。小学生のお兄ちゃんが「…ねえねえ、してる?みらいはたいへんなんだぜ」と言う。お兄ちゃんがいうには「未来は人が増えすぎて食べ物が無くなったり、病気が流行ったり戦争が起こったりして大変な事になるらしい」ショックを受けた女の子はおばあちゃんに相談をすると「だーいじょうぶよ。みらいがどうなるかなんて、だれにもわからないんだから」と笑顔で言ってくれた。「おとなはすぐに『みらいはきっとこうなる』とか『だからこうするしかない』とかいうの。でもたいていはあたらぬいのよ」と言う。

あと大人は「これとこれどっちにする」とか言うけどどっちも違うなと思ったときには新しいものをみつけちゃえばいいのよ。

「すき」でも「きらい」でもない「すらい」とかあってもいい。選択肢は2つではなくてグレーでもいい。「よいか」「わるいか」とか「てきかみかた」とか分けなくてもいい。

選択肢は与えられるものではなくて自分で作っていい。大人として子どもにたくさんの選択肢を与えていきたい。ルールに乗せてあげたほうが子どもは楽だろうと考えていたけれども、それは子どもの選択肢を狭めていたのだから。未来は決して暗くはない。これから子どもたちが想像したほうに自らが作っていけばいいんだ。考え方ひとつで楽しい未来がたくさんみえてくるはず。コロナで不安な世の中「それしかないわけないでしょ」楽しい未来をたくさん想像していきましょ。

祝成人

Aさん、Mさんが、今年成人式を迎え、晴れ姿の写真を送ってくれました。



編集後記

今年前半は、「新型コロナウイルス」の感染拡大防止により、子どもたちも自粛生活を余儀なくされました。5月末緊急事態宣言も解除されましたが、今後も長期化が懸念されており、今年度の『共楽養育園祭』は中止させて頂く事になりました。楽しみにされていた方には、申し訳ありません。1日も早いコロナウイルスの終息を願うばかりです。

どうか、皆様も安全にお元気にお過ごしください。

松元 宏子